

富良野市における調査結果の概要

国語

算数・数学

英語

質問紙

令和元年9月 富良野市学力向上推進プロジェクト

平成31年度全国学力・学習状況調査の富良野市における調査結果を公表いたします。本市では、「学びの大地」に根ざした富良野に育つ3本の木（「知育の木」「情意の木」「健康の木」）の、より質の高い調和を目指しており、今回公表する学力調査結果は、その一部と捉えています。したがって、この調査結果は児童生徒の現時点での一面であり、今後の取組の資料に資するものと捉えています。今回の調査結果を今後の本市の教育施策や学校の取組に活かして、本市教育を一層充実させてまいりたいと考えております。

また、保護者・市民のみなさまに学習状況及び意識調査の結果をお知らせすることにより、富良野市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育環境づくりを考えていただく機会としたいとも考えております。

児童生徒の学力向上を含め、「学びの大地」に根ざした富良野に育つ3本の木の、より質の高い調和を実現するためには、学校・家庭・地域の連携が必要不可欠です。今回、教科の学習状況と質問紙による意識調査（家庭や地域での学習や生活状況の様子）を併せて公表することで、その連携体制をより強化してまいりたいと考えております。

なお、この学力調査の結果は、児童生徒が身に付けるべき学力の一部分であり、この結果によって児童生徒の全てを評価するものではなく、子どもの成長に資するための資料であることから、序列化や競争につながらないよう、ご理解をお願いいたします。

調査の概要

◆調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し教育施策の成果と課題を検証し改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆調査の対象

小学校第6学年、中学校第3学年

◆調査の内容（本年度より教科に関する調査内容が変更となりました。）

- 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語（中学校のみ））
 - ・主として「知識」「活用」に関する問題（国語、算数・数学、英語）
- 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に関する調査
 - ・学校に関する調査

教科に関する調査結果の概要について

◆教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）

【小学校】

国語は、全国平均正答率を上回り、算数は同等（全国平均正答率とのポイント差が3ポイント以内）でした。

【中学校】

国語と数学は、全国平均正答率を上回り、英語は同等（全国平均正答率とのポイント差が3ポイント以内）でした。

本市では、学校教育中期計画の「自立と共生の未来を拓く心豊かでたくましい人を育む」という基本理念のもと、教育の原点である知育・徳育・体育の調和のとれた児童生徒の着実な育成を基本に据え、「全ては子どもたちのために」「全ての子どもたちのために」を合言葉に、児童生徒の無限の可能性を伸ばす教育の充実に努めてきました。

また、児童生徒が未来を拓き、変化の激しい時代をたくましく生き抜く「生きる力」を地域全体で育むために、学びの大地に大きく育つ三本の木としての『富良野市 ZERO 運動』を推進してきました。その成果は、様々な分野で児童生徒の成長の姿として発現され、それにふさわしい成果や高い評価を各方面から受けてきたところです。

本年度の学力・学習状況調査においては、小学校では国語で全国平均正答率を上回り、算数は同等でした。また、中学校では国語と数学で全国平均正答率を上回り、英語は同等でした。

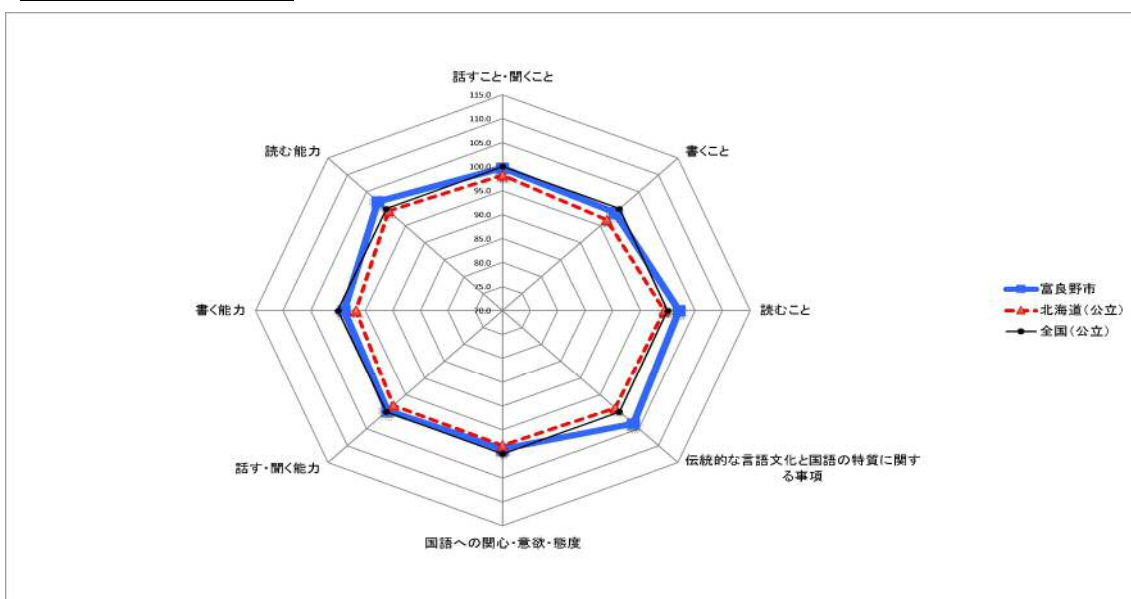
この結果は、各小中学校における授業改善が着実に進んで成果を上げていると捉えることができます。今後は、達成率の低い領域を中心に、各小中学校において「わかる授業」への授業改善及び教育課程の見直しに全力を挙げて取り組み、家庭・地域と連携して学力向上に努めてまいりますので、ご家庭及び地域の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

各教科の領域別の状況

小学校国語

全国を100とした場合の全道及び本市の状況を数値で示しています。

（数値は、それぞれの平均正答率÷全国平均正答率×100で算出）



【小学校国語の成果と課題】

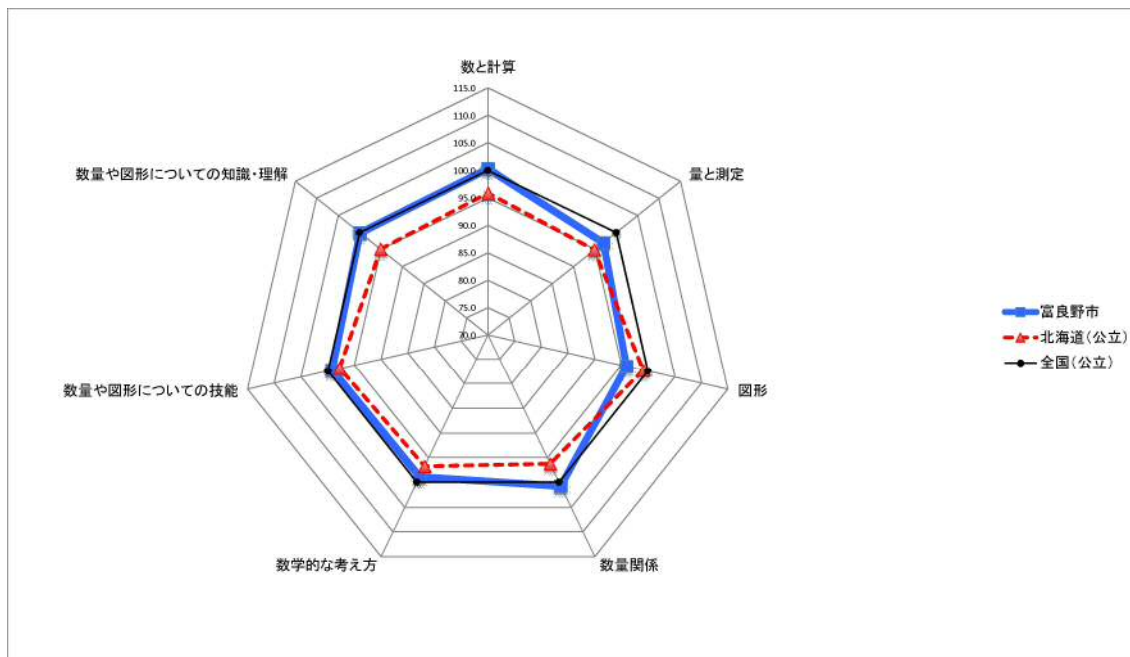
8つの観点ともバランスのとれた成果が見られます。特に、「読む力」が定着していることがわかります。

「書く能力」の育成が課題と捉え、日常授業や復習、家庭学習等を工夫して育成していくことが重要であると考えます。

小学校算数

全国を100とした場合の全道及び本市の状況を数値で示しています。

(数値は、それぞれの平均正答率÷全国平均正答率×100で算出)



【小学校算数の成果と課題】

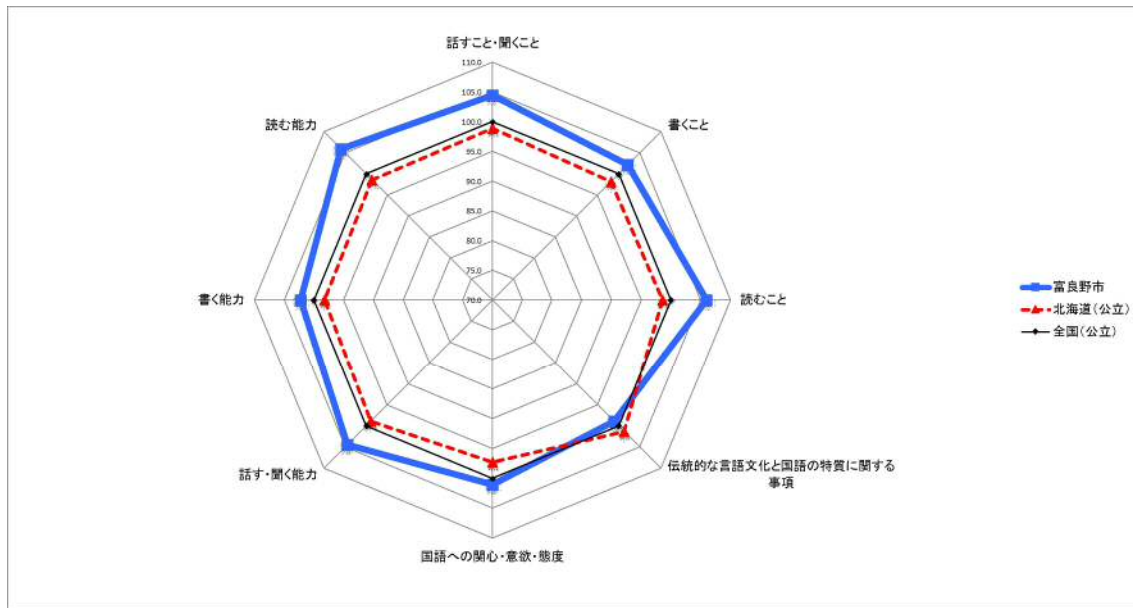
国語と同様に、7つの観点ともバランスのとれた成果が見られます。特に、「数と計算」「数量関係」の力が定着していることがわかります。

「図形」の領域での力の定着が課題と捉え、日常授業や復習、家庭学習等を工夫して育成していくことが重要であると考えます。

中学校国語

全国を100とした場合の全道及び本市の状況を数値で示しています。

(数値は、それぞれの平均正答率÷全国の平均正答率×100で算出)



【中学校国語の成果と課題】

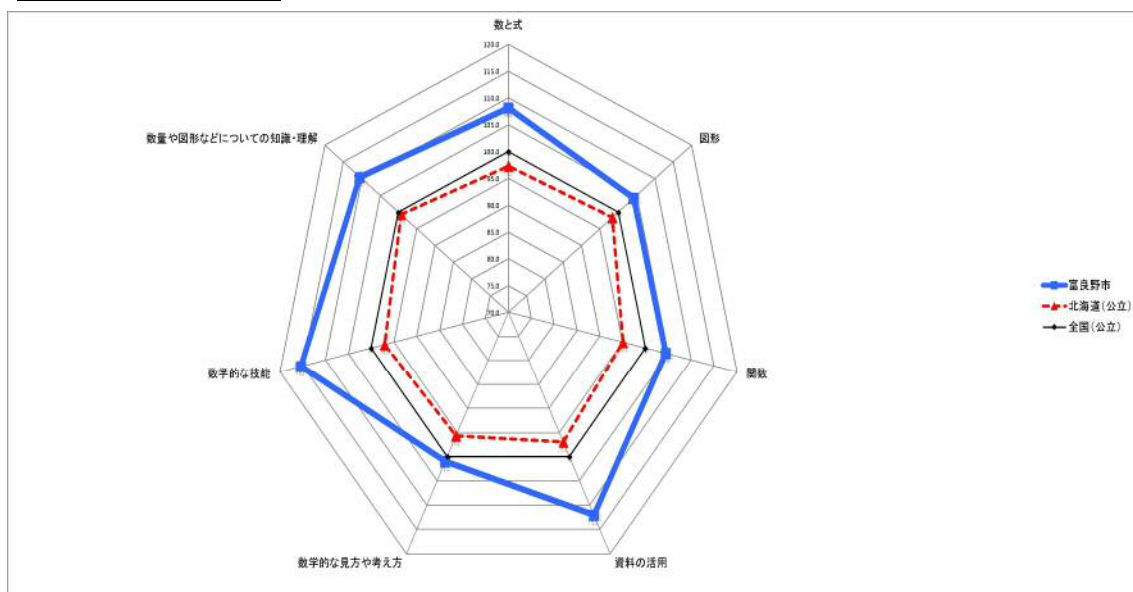
8つの観点ともバランスのとれた成果が見られます。特に、7つの観点で全国平均正答率を大きく上回る成果を上げていることがわかります。

「伝統的な言語文化と国語と特質に関する事項」の領域での力の定着が課題と捉え、日常授業や復習、家庭学習等を工夫して育成していくことが重要であると考えます。

中学校数学

全国を100とした場合の全道及び本市の状況を数値で示しています。

(数値は、それぞれの平均正答率÷全国の平均正答率×100で算出)



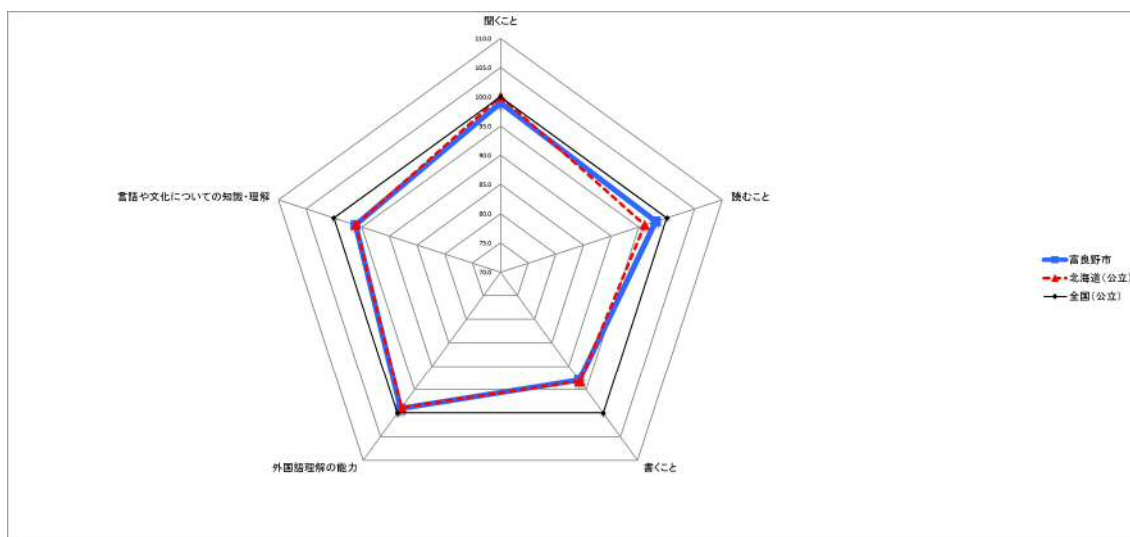
【中学校数学の成果と課題】

全ての観点で全国平均正答率を大きく上回る成果を上げていることがわかります。この成果を生かして更なる学力の確かな定着に向けた授業等の工夫が重要な課題となると考えます。

中学校英語

全国を100とした場合の全道及び本市の状況を数値で示しています。

(数値は、それぞれの平均正答率÷全国平均正答率×100で算出)



【中学校英語の成果と課題】

「読むこと」「聞くこと」の領域で成果が上がっていることがわかります。「書くこと」の領域での力の定着が課題と捉え、日常授業や復習、家庭学習等を工夫して育成していくことが重要であると考えます。

◆小学校第6学年時（平成28年度）調査結果との比較

今年度から調査内容が変更になり、3年前のデータとの単純な比較はできませんが、国語と数学が全国平均正答率を上回り、英語も全国平均と同等の結果を示していることから、学校を中心とした組織的な授業改善等による成果が確かな学力の向上につながっていると考えます。

この成果の背景には、生徒一人一人の頑張りはもちろんのこと、中学校における教科担任制による専門的な授業の積み上げによるところが大きいと考えられます。更には、富良野市の全小中学校で取り組んでいる年間計画に位置付けた「チャレンジテスト」の実施や定期テスト等の効果的な活用、校内研修を通じた日常授業の改善、「まとめの時間」を設定した教育課程（教育計画）の工夫、稼業日及び長期休業を活用した「学習サポート」活動、家庭との連携による学習習慣や生活習慣に向けた取組が成果を上げていると考えます。

◆調査結果（まとめ）

本年度の学力・学習状況調査をまとめると、本市は小学校6年では、国語が全国平均正答率を上回り、算数も同等の正答率でした。中学3年では国語と数学で全国平均正答率を上回り、英語が同等の正答率でした。このことから、富良野市の学力向上の取組は確かな成果を上げているといえます。

その要因として、全ての小中学校で組織的に授業改善を進めていること、小中連携の取組の充実、富良野市キャリア教育の推進、小規模校における教育活動の充実、教職員の加配、特別支援教育支援員の配置、長期休業中及び稼業日での放課後の学習サポートの実施、ICT機器（電子黒板・実物投影機・タブレット・デジタル教科書等）を活用した授業の充実が挙げられます。また、学校支援ボランティアによる読み聞かせ、ブックトラック事業

等の読書活動の推進、イングリッシュキャンプ、スクールバスの乗車時を活用した英語活動等の英語教育の推進が挙げられます。今後も一人一人の学力向上に向けて、学校・家庭及び地域との連携を深め本市の教育活動を更に充実させてまいります。

※ 今後の授業改善の取組

- 学校全体で学力向上に向けた組織的な取組を推進するため、各学校の実情に合わせ「学力向上推進委員会」を機能させ、学力向上を図るための「わかる授業」の改善を主眼に据えた指導の充実を図っていきます。
- 「わかる授業」を目指して「課題設定」「まとめ」「振り返り」を学習過程（授業の進め方）に意図的・計画的に位置付け、授業改善に努めます。
- 自分の考えを書いたり発表する場面を意図的・計画的に学習過程（授業の進め方）に積極的に取り入れ、授業改善に努めます。
- 学習の指導計画を工夫して「反復学習」「繰り返し学習」を積極的に取り入れ、学習内容の確実な定着に努めます。
- 各教科ごとに育むべき資質・能力を明確にした教育課程（教育計画）の点検と見直しを行い、授業改善につなげます。
- 学校での学習効果を高め、理解を確実なものにするため、家庭と連携して家庭での「宿題」「課題」「家庭学習」の取組を計画的に行います。

この調査結果を踏まえ、本市の学力向上に向けた取組を、『第3次富良野市学校教育中期計画（平成30年度～令和2年度）』及び『富良野市 ZERO 運動』を基軸として充実した教育活動が展開できるよう推進していきます。

『第3次富良野市学校教育中期計画（平成30年度～令和2年度）』

現在の子どもたちが大人になって活躍する21世紀は、人工知能の進展に伴う急速な変化が想定される情報化社会、少子高齢化が進む社会になると予想されています。

平成25年度から平成29年度の第2次学校教育中期計画は「自立と共生の未来を拓く心豊かでたくましい人を育む」ことを理念に掲げ策定された計画です。

そこで富良野市では昨年度から、これまでの成果と課題を踏まえた上で第2次富良野市学校教育中期計画の理念を継承し、変化の激しい社会をたくましく生き抜き、自らの未来や社会を拓くための子どもたちの「生きる力」をオール富良野で育むための第3次富良野市学校教育中期計画（平成30年度～令和2年度）を策定し2年目を迎えたところです。

『富良野市 ZERO 運動』

富良野市 ZERO 運動は、子どもたちの「生きる力」をオール富良野で育む第3次富良野市学校教育中期計画に示された富良野市教育の基本理念を実現するための根幹にかかわる運動（教育計画及び教育活動）のことです。

ZERO 運動の ZERO は、「主体性や自主・自律」「原点や輪・和」「（子どもの）成長する姿やたくましく前進する姿」をあらわす言葉です。この言葉には、富良野市の子どもたちが「学びの大地」で大きく根を張り、「知育の木」「情意の木」「健康の木」の三本の木に豊かな枝葉を繁らせる姿に成長させるという本市の願いが込められています。

そのため、各小中学校・教職員・家庭・地域には「地域ぐるみの教育環境づくり」の充実に向け、教育環境の原点を見つめ直し、教育活動の輪（和）を広げることで富良野市教育の基本理念を実現することが期待されています。

児童・生徒質問紙調査結果の概要について

□小学校で58項目、中学校で69項目の児童・生徒質問紙での項目のうち、学習習慣・生活習慣・学力の定着に向けて相関関係またはそれに近い関係があると思われる項目を抜粋して示しています。

□相関関係とは、因果関係ほどの直接的な関係性はありませんが、「勉強時間が長い児童生徒ほど正答率が高くなる傾向にある」ような関係のことをいいます。

(項目1)「朝食を毎日食べていますか。」

		回 答		食 べ て い る	ど ち ら か と い え ば 食 べ て い る	ど ち ら か と い え ば 食 べ て い な い	全 く 食 べ な い
		児 童 生 徒 教 科 正 答 率 (%)					
小 6	国 語			68.0	52.3	41.8	60.7
	算 数			68.8	55.8	49.0	53.6
中 3	国 語			76.0	75.7	69.0	10.0
	数 学			65.9	58.3	54.4	37.5
	英 語			56.2	49.7	37.1	38.1

○小学生では、「朝食を毎日食べている」と答えた児童ほど正答率が高いという相関関係に近い傾向が国語と算数で見られることから、「朝食を食べて生活リズムを定着させること」が学力向上の重要な要素となると考えられます。中学生では、国語と数学で相関関係が見られ、英語でも相関関係に近い傾向が見られることから、小学校からの生活リズムの定着が学力向上のための極めて重要な要素になると考えられます。

(項目2)「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。」

		回 答		寝 て い る	ど ち ら か と い え ば 寝 て い る	あ ま り 同 じ 時 刻 に 寝 て い な い	全 く 同 じ 時 刻 に 寝 て い な い
		児 童 生 徒 教 科 正 答 率 (%)					
小 6	国 語			67.1	66.8	59.4	39.3
	算 数			72.0	67.2	58.2	39.3
中 3	国 語			79.5	75.5	68.6	66.3
	数 学			72.0	63.9	54.7	45.3
	英 語			59.8	53.7	49.1	37.5

○小学生、中学生ともに「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と答えた児童・生徒ほど正答率が高いという明確な相関関係が全ての教科で見られることから、小学生からの朝ご飯を含めた「早寝・早起き・朝ご飯」のような「規則正しい生活習慣の定着」が学力向上のための極めて重要になると考えられます。

(項目3)「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。」

		回 答		起 き て い る	ど ち ら か と い え ば 起 き て い る	あ ま り 同 じ く ら い の 時 刻 に 起 き て い な い	全 く 同 じ く ら い の 時 刻 に 起 き て い な い
		児 童 生 徒 教 科 正 答 率 (%)					
小 6	国 語			65.5	65.4	62.8	17.9
	算 数			68.1	65.4	60.2	32.1

3	中	国語	79.9	70.8	63.6	78.3
		数学	68.3	63.4	45.1	54.2
		英語	56.5	53.3	47.3	44.4

○小学生では、「毎日、同じくらいの時刻に起きる児童ほど正答率が高い」という相関関係が国語と算数で見られ、中学生では、全ての教科で相関関係が見られます。このことから、同じくらいの時刻に起きる習慣は学力向上のための大切な要素の一つであると考えられます。

(項目4)「自分には、よいところがあると思いますか。」

回答		当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
小6	国語	65.5	67.7	62.1	40.5
	算数	61.8	70.5	65.4	50.0
中3	国語	78.1	77.2	66.7	67.1
	数学	67.4	67.6	53.3	50.4
	英語	55.6	56.8	46.7	45.7

○小中学生ともに、全ての教科で相関関係が見られることから、自尊感情（自分にはよいところがあると感じている感情）が高い児童生徒ほど、学習結果の成果が見られると考えられます。学校に限らず、家庭や地域で一人一人のよさを認める環境を整えることが学力向上にも重要な要素であると考えられます。

(項目5)「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」

回答		当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
小6	国語	65.8	65.5	58.6	50.0
	算数	65.1	65.6	71.4	50.0
中3	国語	79.3	75.8	72.1	55.6
	数学	73.5	63.5	55.6	41.0
	英語	59.7	53.7	48.1	44.4

○小中学生を通じて、「先生に認められている自覚」のある児童・生徒ほど明確な相関関係やそれに近い関係が見られることから、一人一人のよさを認めることは学習への意欲や自信、よい成果につながる要素の一つであると考えられます。

(項目6)「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれていると思いますか。」

回答		当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
小6	国語	65.6	64.9	57.9	35.7
	算数	66.7	66.6	61.4	14.3
中	国語	77.5	74.1	72.5	68.0

3	数 学	67.7	63.7	56.3	48.8
	英 語	56.5	53.6	48.3	51.4

○小中学生ともに、「先生の教え方について理解し、学習意欲が向上した」児童・生徒ほど、明確な相関関係やそれに近い関係が見られることから、理解できるまで努力する学習習慣を定着させることが、学習への意欲や自信、学力向上につながる要素の一つであると考えられます。

(項目7) 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。」

回 答		当てはまる	どちらかとい えば当てはまる	どちらかとい えば当てはま らない	当てはまらない
		児童生徒 教科 正答率 (%)			
小 6	国 語	68.3	58.0	46.4	42.9
	算 数	67.5	66.5	52.9	32.1
中 3	国 語	76.9	65.8	82.9	45.0
	数 学	66.2	53.3	64.3	42.2
	英 語	55.1	48.9	53.7	48.8

○小学生では、「最後までやり遂げる成功体験を感じる」児童ほど、正答率に相関関係が見られることから、小学生における成功体験ややり遂げる体験が学習への意欲や自信、学力向上につながる要素であると考えられます。中学生では、小学生ほど明確な相関関係は見られませんが、学習習慣を定着させるための要素の一つになると考えられます。

□児童質問紙で問われた項目うち、富良野市 ZERO 運動を推進している本市小中学生の「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか。」の質問に対する意識の傾向を全道及び全国平均と比較して示します。

項目		当てはまる	どちらかとい えば当て はまる	どちらかとい えば当て はまらない	当てはまらない
		割合			
小 6	本 市 (%)	92.7	6.1	1.2	0.0
	全 道 (%)	87.2	9.9	2.0	0.9
	全 国 (%)	85.0	12.1	2.0	0.8
中 3	本 市 (%)	89.2	9.7	0.6	0.6
	全 道 (%)	79.3	15.4	3.8	1.4
	全 国 (%)	78.3	16.8	3.6	1.3

○小中学生とも、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答えている児童生徒が98%を超えており、各学校で取り組んでいる児童会及び生徒会活動を中心とした本市の「いじめゼロ運動」が着実に成果を上げていることがわかります。

課題と改善のポイント

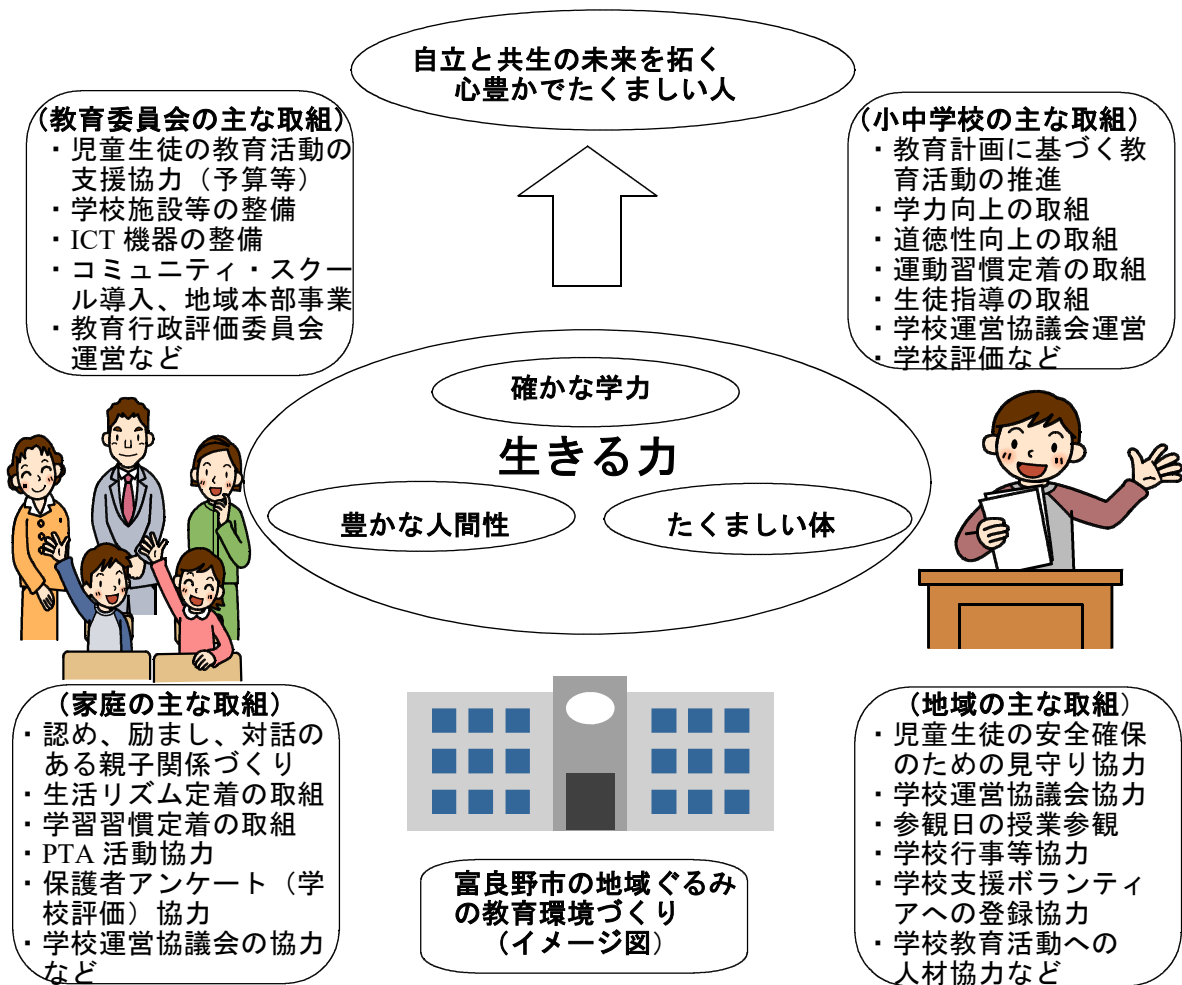
保護者・地域の皆様へ

現在の子どもたちが大人になって活躍する 21 世紀は、人工知能の進展に伴う急速な変化が想定される情報化社会、少子高齢化が更に進む社会と予想されています。

だからこそ、小中学校のうちに「生きる力」の基盤づくりをしておくことが重要となります。そのためには、学校・家庭・地域が「学びの環境」を整え、子ども一人一人の可能性を最大限に伸ばす「地域ぐるみの教育」を実現させることが課題であると考えます。

児童生徒の学力の向上を含めた教育活動は、学校が責任をもって推進しており、特に学力向上に向けては、富良野市内小中学校において校内授業の研究体制を整え、授業公開や研究授業・日常授業の改善などに全力を挙げて課題の克服に取り組んでいます。それに加え、「地域ぐるみの学びの教育環境」を実現させるためには、児童生徒の「学びの環境」の土台となる「しつけや家庭での学習習慣及び規則正しい生活習慣の定着」に向けた学校・家庭・地域の連携した取組の充実が極めて重要となると考えます。

富良野市が目指している「地域ぐるみの教育環境づくりの実現」に向けて、大人はもう一度足もとを見直し、大人としての責任を自覚し、改めることは改め、当たり前前は当たり前のこととしてできるよう心がけ、21 世紀の日本や北海道、そして富良野市を支え、活躍できる子どもたちを育成するために「学びの環境」を整えていきましょう。



～ほめて伸ばそう 子どもの学力～

行政、学校、家庭、地域社会が連携し、
確かな学力向上に努めます。

◆ 教育委員会

- 学校、家庭、地域が一体となって取り組める体制づくりを推進します。
- 外部講師等の協力による継続的な授業の支援を推進します。



◆ 学校

- 学習状況の現状把握により明確な目標を設定し、学校全体で学力向上に取り組む体制づくりに努めます。
- 学習への関心・意欲の向上を図り、学習の悩みゼロに努めます。
- 基礎・基本（学習した内容・教科書の内容）の確実な定着を図るため、指導体制と指導方法の工夫改善を図ります。
- 児童生徒が発表する場面や体験活動等を充実し、「生きる力」を育てます。
- 家庭や関係機関と連携し、個に応じた特別支援教育の充実を図ります。
- 学校間・校種間の連携と円滑な接続に努めます。
- 予習・復習の仕方や必要性を自覚させ、家庭学習の定着化を図ります。

◆ 家庭

- 『家族の約束7か条』を推進しましょう。
- 日常生活での積極的なコミュニケーションに努めましょう。
- 規則正しい生活習慣と宿題の取組のみならず、計画的な家庭学習（予習・復習）に取り組みましょう。



※小学校6年生で毎日70分以上、中学校3年生で毎日100分以上取り組みましょう。

- 「早寝・早起き・朝ごはん、みんなそろって晩ごはん」を実践しましょう。
- 「ほめて、伸ばす」家庭教育に取り組みましょう。

◆ 地域

- 積極的に子どもたちとふれあいましょう。
- 学校の応援団として、学校支援ボランティアへ登録しましょう。
- 地域の学校の参観日へ積極的に参加しましょう。

富良野市学力向上推進プロジェクト

（富良野市PTA連合会・富良野市校長会・富良野市教育委員会）

家族の約束7か条

「すべては子どもたちのために」を合言葉に

- 1 学習や規則正しい生活習慣の定着に向けて「早寝・早起き・朝ごはん・みんなそろって晩ごはん」運動に取り組みましょう。
- 2 NO テレビ・NO ゲーム・NO インターネットの日を決めて、家族で対話や読書等に充て、家族の「絆」を深めましょう。
- 3 学校行事や PTA 活動に積極的に参加しましょう。
- 4 子どもの危険信号（SOS）に早く気づき、心配事は39-2333（教育相談直通電話）へ電話しましょう。
- 5 スマホ・携帯電話・インターネットなどのネット被害から子どもたちを守るため、「家族のルール」を決めて、家族の「絆」を深めましょう。
- 6 参観日（授業参観・学年及び学級懇談等）や家庭教育（子育て）セミナー、講演会に積極的に参加しましょう。
- 7 子育て家庭教育ハンドブックを活用し、家族の「絆」を一層深めましょう。



富良野市 PTA 連合会・富良野市教育委員会

学力向上に向けた学校等での取組

1 全国学力・学習状況調査結果の公表（富良野市教育委員会）

- ◎ 各学校ごとに保護者・地域へ公表
- ◎ 「富良野市学力向上推進プロジェクト」による結果検討及び概要の作成
- ◎ 上記プロジェクト検討結果の概要をホームページ及び広報「ふらの」で市民に公表

2 全国学力・学習状況調査結果・標準学力検査結果等の活用（各小中学校）

- ◎ 学力向上委員会等を通じた組織的な調査及び諸テスト結果の分析と改善策の実施
- ◎ NRT 標準学力検査結果（全小学校の2～5年生で実施）、知能検査結果（全小学校2つの学年で実施）及びQ-U検査結果を関連付けた活用
- ◎ 全国学力・学習調査の過去問題、チャレンジテスト、市販テスト、自作テストの活用

3 各学校における学校力向上の取組

- ◎ 富良野市第3次学校教育中期計画（平成30年～令和2年度）に基づく学校・教育委員会が一体となった児童生徒の確かな学力向上に向けた取組
- ◎ 学校評価結果（教職員評価・保護者アンケート・児童生徒アンケート等）の学校・家庭・コミュニティ・スクール（学校運営協議会）での共通理解に基づいた学力向上に向けた取組
- ◎ 学校評価結果に基づく全教育活動を見通した学校改善プラン及び学力向上プランの組織的な分析と見直し
- ◎ 学校改善プラン及び学力向上プランの分析・見直しに基づく改善策の実施
- ◎ 新学習指導要領に基づく教育課程への移行及び外国語活動の先行実施
- ◎ 日常授業スタイル、学習規律、教室環境整備等の共通指導の充実による「チーム学校」としての教育活動の推進
- ◎ 地域住民を対象とした地域公開参観日の開催等による学校教育への共通理解の強化、家庭・学校運営協議会・地域の連携による学力向上の取組
- ◎ ふるさとキャリア教育等を重点とした保幼小中高一貫教育の推進

4 各学校における教師力向上の取組

- ◎ 主体的・対話的で深い学びを位置付けた教育課程（教育計画）に基づいた、日常授業の改善をねらいとした校内研究体制の推進
- ◎ 教職員のライフステージ（年齢・経験年数等）に応じた英語指導力を含めた「専門的な研修会」「教師力向上研修会」「学力向上サポートセミナー」等への積極的な参加と日常授業への反映
- ◎ 客観的な学力資料（NRT 標準学力検査結果、知能検査結果及びQ-U検査結果、全国学力・学習調査の過去問題、チャレンジテスト、市販テスト、自作テスト結果等）に基づいた組織的な授業改善の実施

- ◎ 各教科等との関連を図った教育課程に基づく、教科内容指導にふさわしい人材・環境の活用による体験活動及び言語活動と教科活動の充実
- ◎ 授業の課題やまとめを意識した「わかる授業」の実践、授業過程（授業の進め方）を関連付けた板書とノート指導の充実改善

5 各学校における学力向上に向けたその他の取組

- ◎ 「学習内容のつまずき解消」「きめ細かな指導」で基礎学力（学習内容）の確実な定着をめざす TT 授業（複数教諭による指導）、少人数指導、習熟度別指導等の指導形態の工夫
- ◎ ICT 機器（実物投影機・電子黒板・タブレット端末・デジタル教科書等）の効果的な活用に向けた環境整備及びプログラミング教育実施に向けた整備点検の実施
- ◎ 「学習内容のつまずき解消」「学習内容の確実な定着」に向けた反復学習、苦手な内容の補充学習を中心とした放課後学習及び長期休業中の学習サポートの実施、外部人材や学生ボランティアの活用による補充学習機会の提供
- ◎ 小1プロブレム解消に向けた生活科等におけるスタートカリキュラムの位置付けと中1ギャップを未然防止に向けた中学校教諭による計画的な出前授業等の小中連携や交流の取組
- ◎ PTA、学校運営協議会、関係機関と連携した「早寝・早起き・朝ごはん・みんなそろって晩ごはん」運動推進、「家庭学習の手引」や「生活リズムチェックシート」を活用した望ましい学習習慣と生活習慣定着の促進、家庭における読書時間の確保の促進
- ◎ コミュニティ・スクール制度導入による地域との連携を基盤とした地域ぐるみの学校運営をめざす体制の整備と学校支援ボランティア等の外部人材を活用した授業の位置付けや教育活動の工夫改善
- ◎ 学校独自の朝読書や読み聞かせ、学校図書館の各教科での活用、学校司書の活用、読書週間の設定等による読書習慣定着の取組の継続と市立図書館と学校図書館の連携による読書環境の整備
- ◎ PTA 連合会と連携した「ノーテレビデー・ノーゲームデー」の促進、家庭における学習習慣及び規則正しい生活習慣定着に向けた協力、スマホ・携帯電話・インターネット使用の家庭におけるルールづくりの推進
- ◎ 「英語が使えるふらのっ子」をめざす、ALT（外国語指導助手）による外国語活動、英会話教室の実施、富良野市独自のイングリッシュキャンプ開催、中学校英語教諭の小学校への乗り入れ授業等による小中英語連携事業の推進
- ◎ 学級への適応等で困り感のある児童生徒一人一人への学習指導を充実させるための、富良野市独自の特別支援教育支援員の配置及び指導体制の整備、ことばの通級指導教室（扇山小）の設置による言語や学習のきめ細かな指導の実施及び特別支援教育連携協議会の計画的な開催と教育相談の実施